グループ名 ・代表者名	アトピッ子地球の子ネットワーク FAICM プロジェクト 赤城　智美さん	助成金額	**40** 万円
連絡先など	akagi@atopicco.org		
助成のテーマ	アレルギー表示に起因した食品回収を経験した企業の実態調査		

【調査研究の概要】 アレルギー表示ミス･アレルゲン混入等に起因する食品回収事故は 2009 年 74 件だったが、2017 年は 210 件にのぼり、この 9 年間の総計は約 1,500 件となっている。アレルゲンが含まれているのに表示されていなかったら、食物アレルギー患者は安全なものと誤解してその食品を食べて発症してしまう。患者が企業に問い合わせても自社のミスが認識できず､私達が間に入って現状を説明している数日間に患者数が増えたこともあった。自治体は「表示ミス」の食品回収事故を公開しているが、企業自身が「ミス」と認識しなければ自治体に申告されることはなく回収されることもない｡つまり食品回収としてカウントできているものは氷山の一角なのではないか、という疑念があり「アレルギー表示に関する知識」や「アレルゲン管理」「再発防止対策」などの企業における実態を、私たち市民が知っておくべきではないかと考えた。

アレルギー表示ミス、製造時のアレルゲン混入は患者の発症事故に直結する。「食品を安心して選択できる環境」を実現するためには、製造者も患者(市民)も安全管理に関する現状と課題を共有すべきと考えた。実態調査は、アレルギー表示ミスが原因で食品回収に至った企業 1000 社と対照群（回収経験がない企業）1200 社を絞り込み、合計 2200 通のアンケートを配布。回収は 314 社（回収率 15%）。単純集計とグラフ作成は終了した。回収経験のある企業と対照群との比較やクロス解析の作業はこれから。調査結果は回答企業の他、消費者庁や業界団体などに配布予定である。

【調査研究の経過】

2018 年 4 月：WEB サイト「食物アレルギー危機管理情報」で記録が残っている食品回収を経験した企業の住所録を作成。
　6 月：比較対照群として、回収情報に掲載されていない企業リストを作成。回収が多い菓子業界、惣菜業界、流通（スーパーマーケット）に的を絞って回収経験がないと想定される企業をリストアップ。
　7 月： アンケート項目の検討継続、調査用紙たたき台作成
　10 月：合計 2200 件の配布先を確定
2019 年 1 月：アンケート発送、回収
　2 月：回収アンケートのデータ入力
　3 月：集計、グラフ作成
　4 月：第 3 回「食物アレルギーとアナフィラキシーに関するアジア会議」で速報発表

【今後の展望など】　現段階では以下の３点が注目すべきポイントだと考えている。
（1）約 15%の企業は過去の食品回収経験を忘れている。（2）表示ミスに関連して食品回収した企業は約 60%あった。（3）患者の誤食実態については 70%以上が詳しく知らなかった。患者がまちがえやすい表示については 50%以上が詳しく知らなかった。

最終的な報告書では、社員教育、情報収集、情報更新、社員の意欲の喚起などにも注目してまとめたい。また上記の３つのポイントに注目して、アレルゲン管理や情報収集に関わる項目とのクロス解析を行いたい。

調査結果を踏まえ、食品製造企業の品質保証担当者、食品流通や品質保証等の専門家、公衆衛生専門家等と意見交換し、報告集をまとめて調査に協力してくださった企業に配布する予定。行政や食品安全に関わる様々なステークホルダーに対しても、この問題に対して興味や意欲を喚起するために配布しようと考えている。

会　計　報　告　書　の　概　要　（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支　出　費　目	内　　訳	支出金額	高木基金の助成金を充当	他の助成金等を充当	自己資金
印刷費	アンケート用紙(A)8 頁×1,000 部、アンケート用紙(B)8 頁×1,000 部、料金受取人払封筒長 3　3,000 部、報告集制作 500 部、発送用封筒角 2　3,000 部	153	12	0	141
外部委託費	データ入力 300 通、SPSS によるデータ解析	259	186	0	73
人件費		171	0	0	171
運営経費		1,020	0	0	1,020
郵送	アンケート送付 2,000 通、料金受取人払 300 通	223	202	0	21
合　　計		1,826	400	0	1,426

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

・食物アレルギー危機管理情報（FAICM）　https://www.atopicco-foodallergy.org/faicm/

高木仁三郎市民科学基金報告会

2019 年 7 月14 日(日)

アレルギー表示に起因した食品回収を経験した企業の実態・調査報告

赤城智美　認定NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

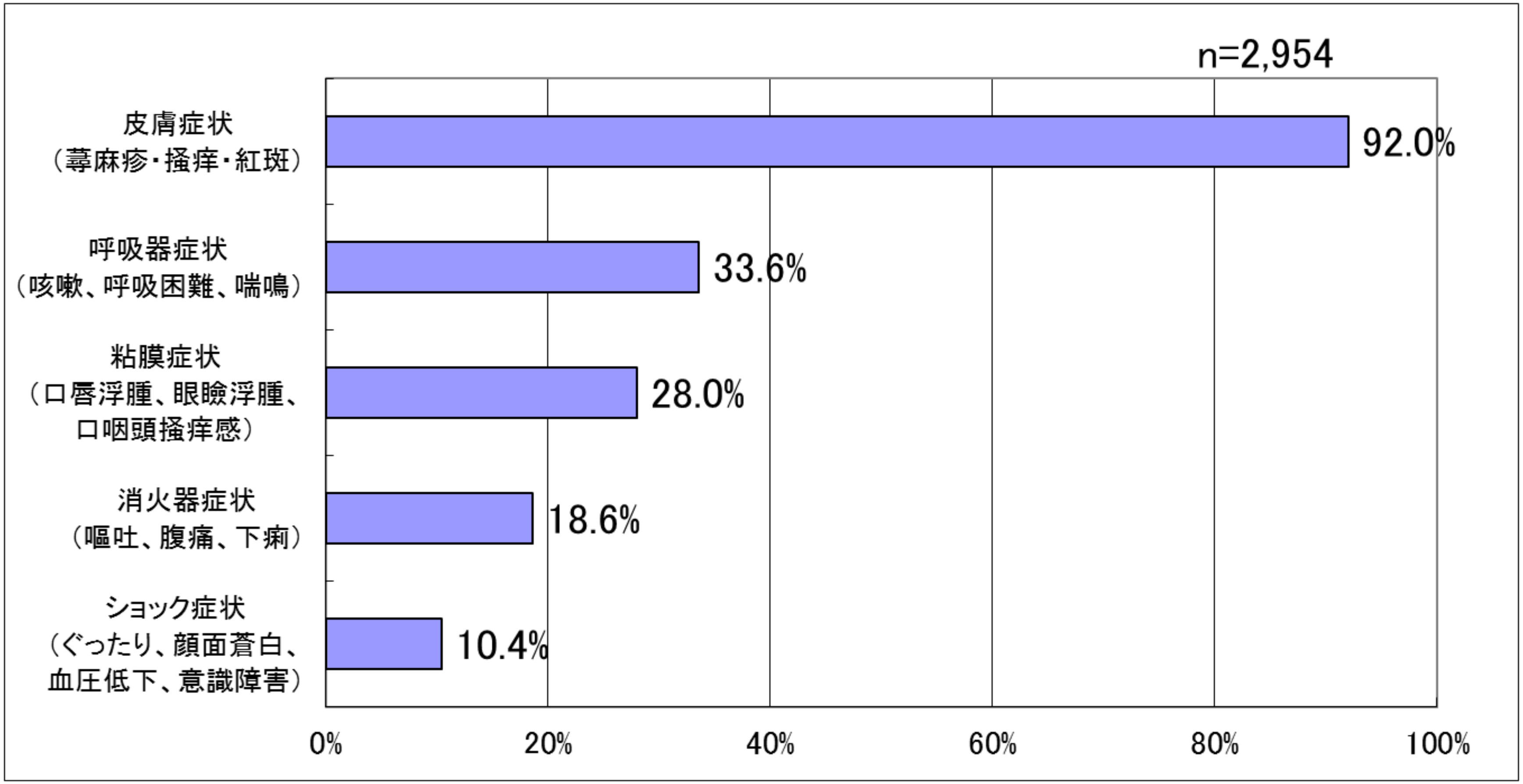
調査対象と回収数

- ◆2019年1月実施。
- ◆食物アレルギー危機管理情報(FAICM)に掲載された 938社と、回収情報に掲載されたことのない対照群 1,200社にアンケート用紙を配布
- ◆回収314件(回収率15%)

　内訳：回収経験がある群142件(16%)

　　　　対照群172件(15%)

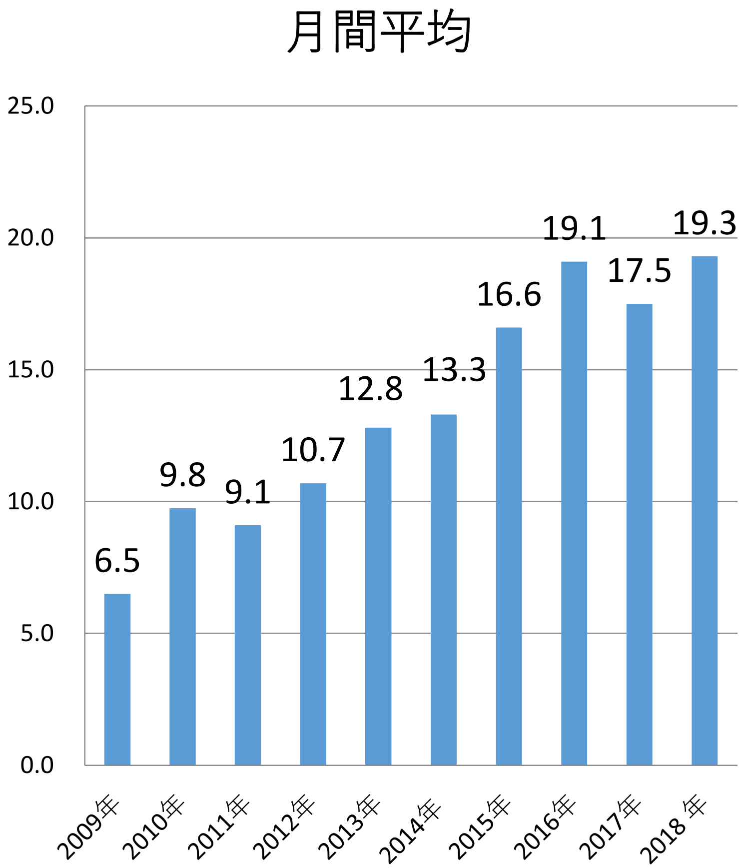
食物アレルギーの人の症状傾向



食物アレルギー診療ガイドライン（2014年）より引用
（平成23年即時型食物アﾚﾙｷﾞｰ全国モニタリング調査結果）

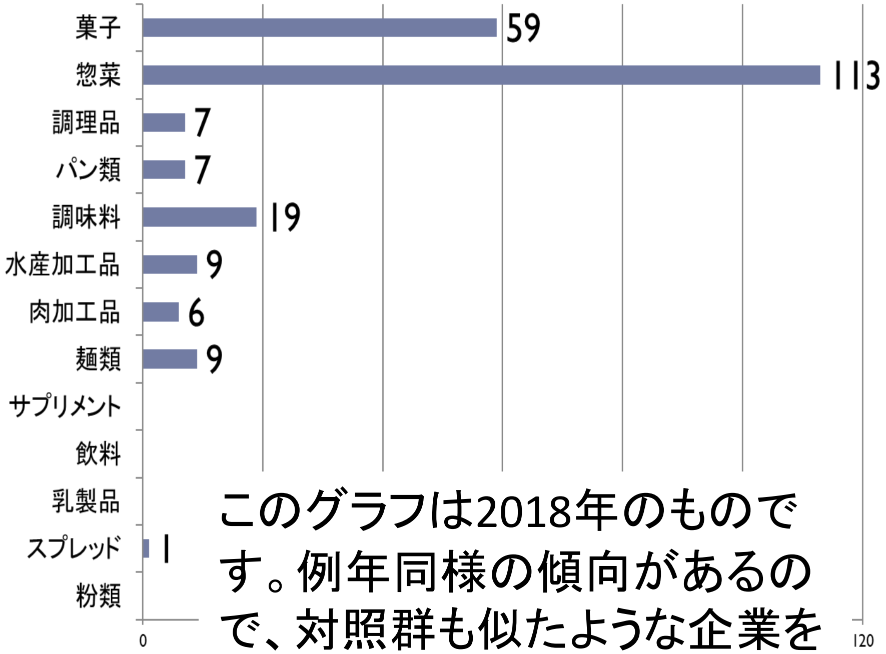
Webサイト　食物アレルギー危機管理情報

アレルギー表示に起因する食品回収



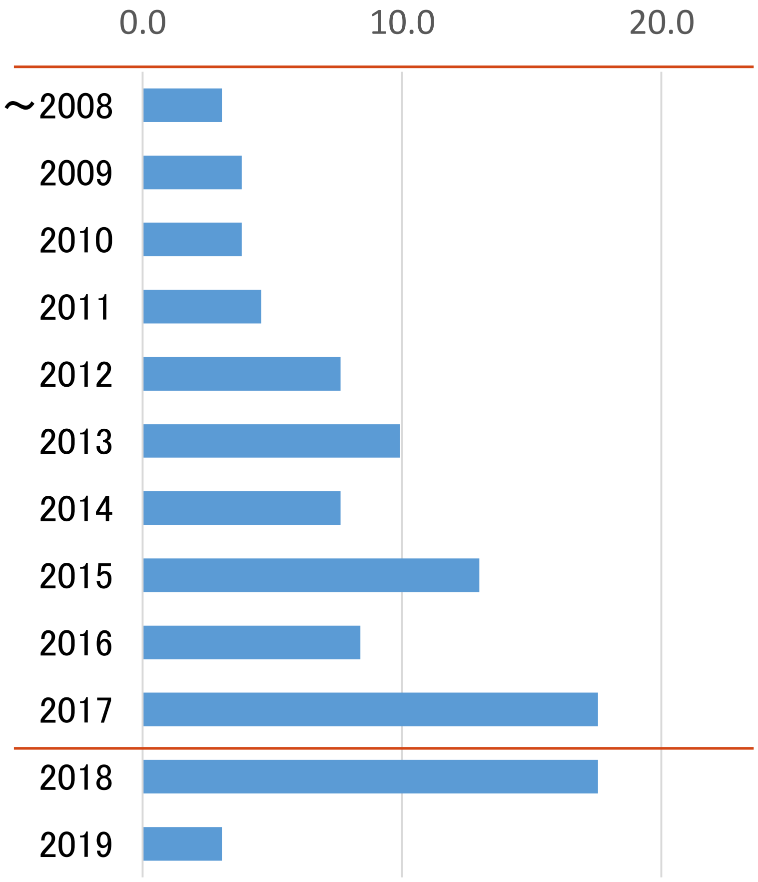
1629社のうち300社は廃業、移転などで追跡できなかった。回収が数回あり重複して出てくるものを省いた938社にアンケートを送付した。

アンケート対象となった企業の主な商品



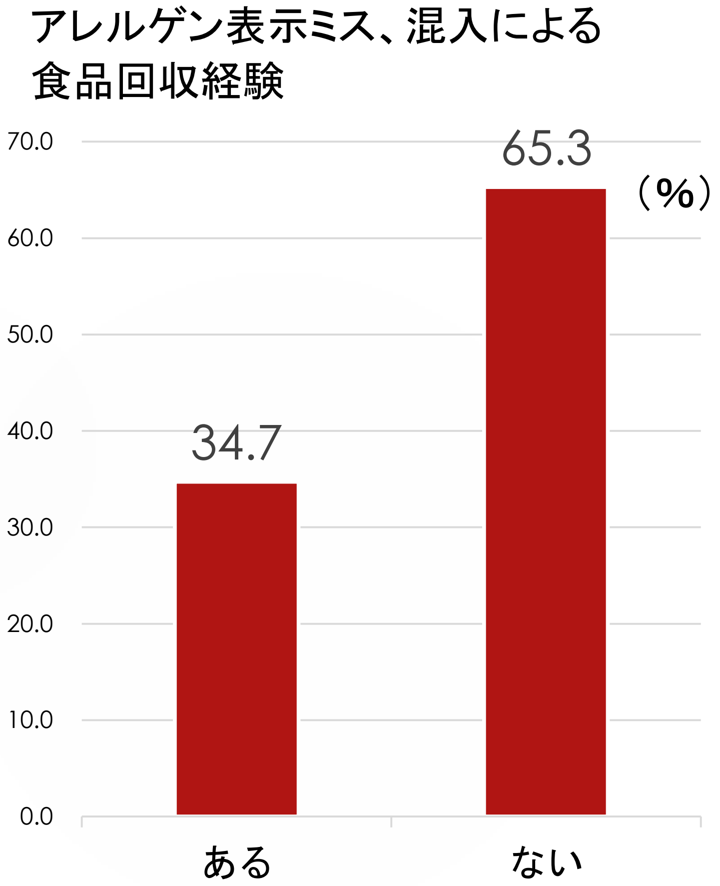
このグラフは2018年のものです。例年同様の傾向があるので、対照群も似たような企業をできるだけ選びました。

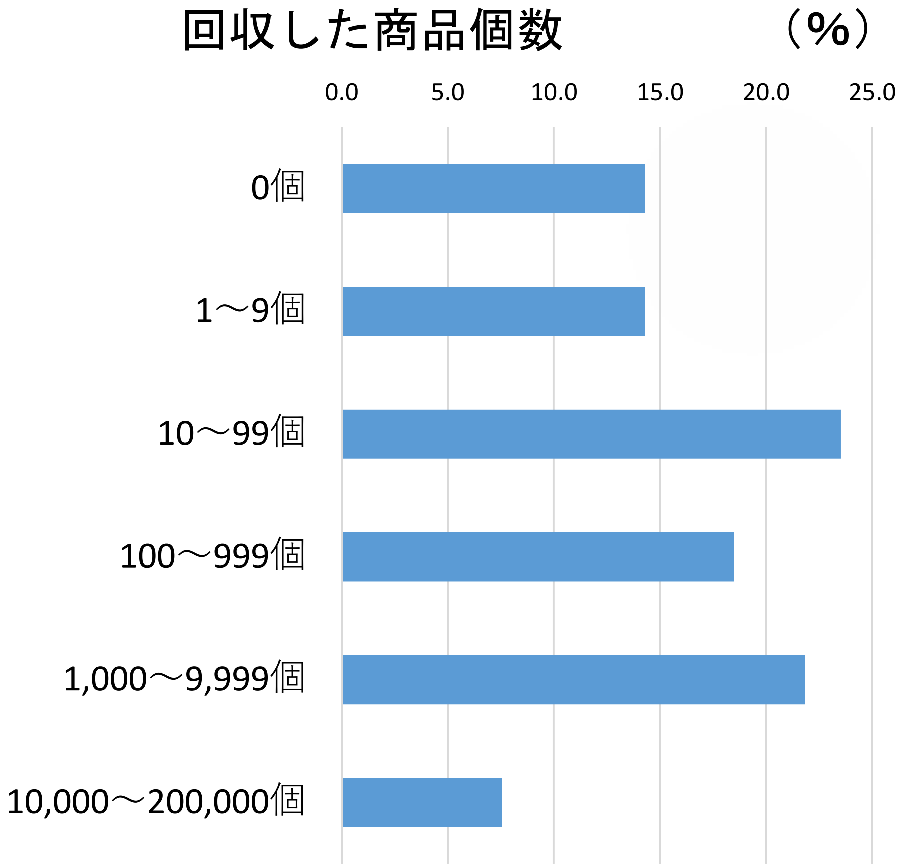
アンケートに回答された回収時期



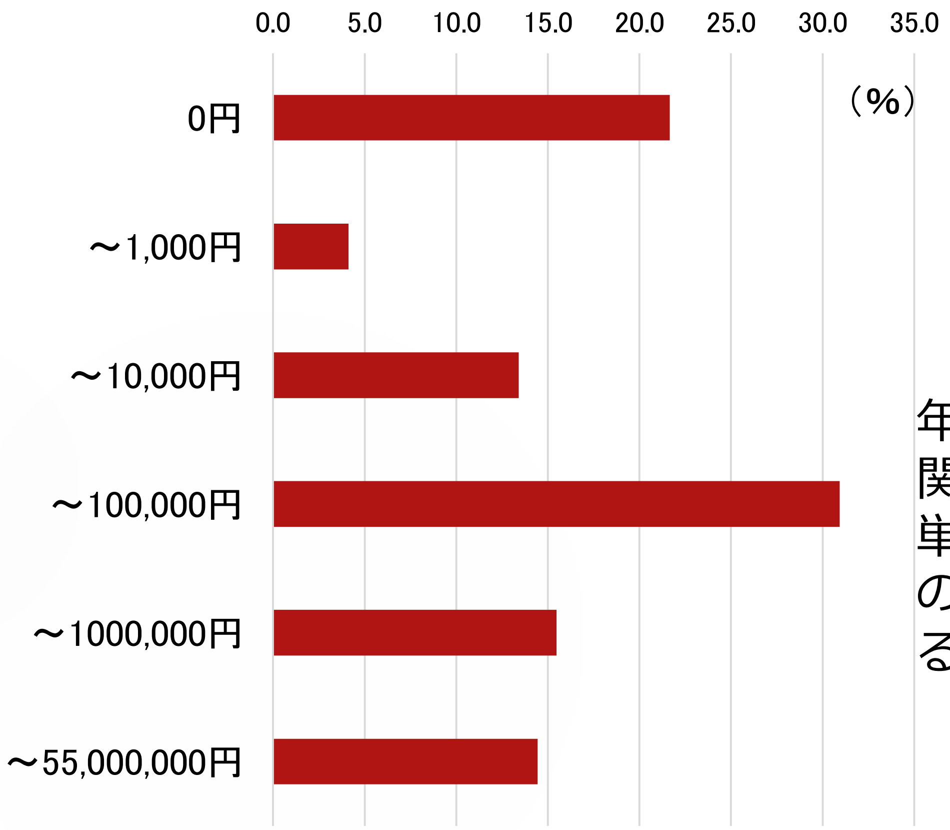
NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

食品回収経験の有無と回収個数





回収にかかった費用



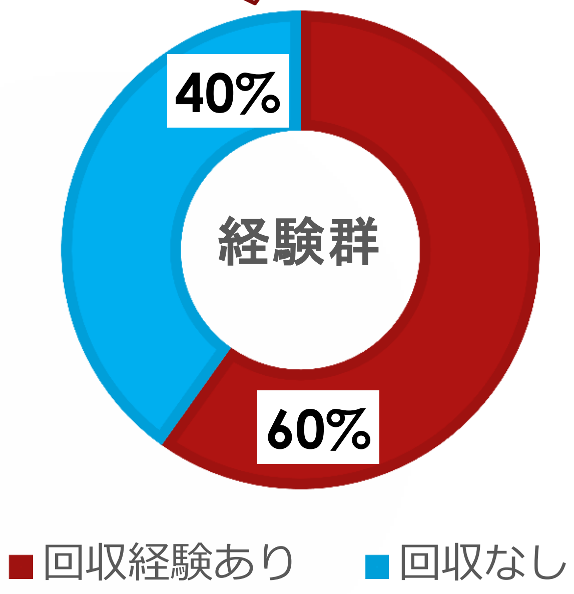
合　計	61,841,800円
平　均	637,544円

年間約200件、アレルギー表示に関連した回収が起こっている
単純計算すると、127,508,800円の経済的損失と考えることもできるのではないか?

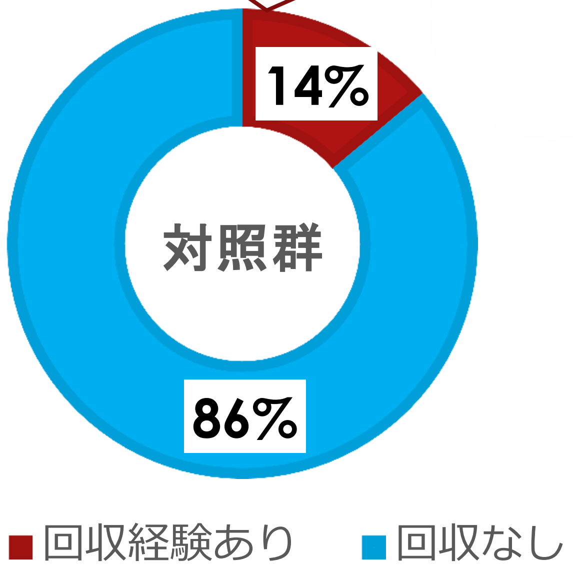
製造コストは含まれていない

少し気になったこと

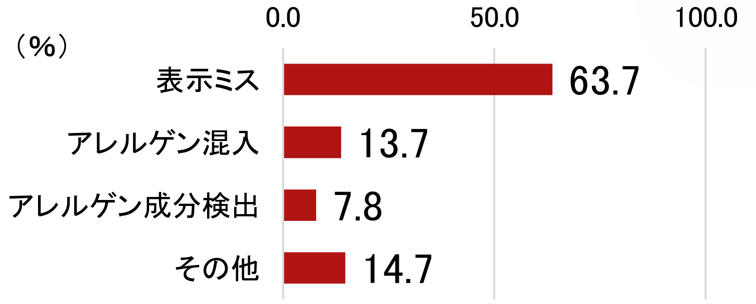
会社の経験が社内に蓄積されていない可能性



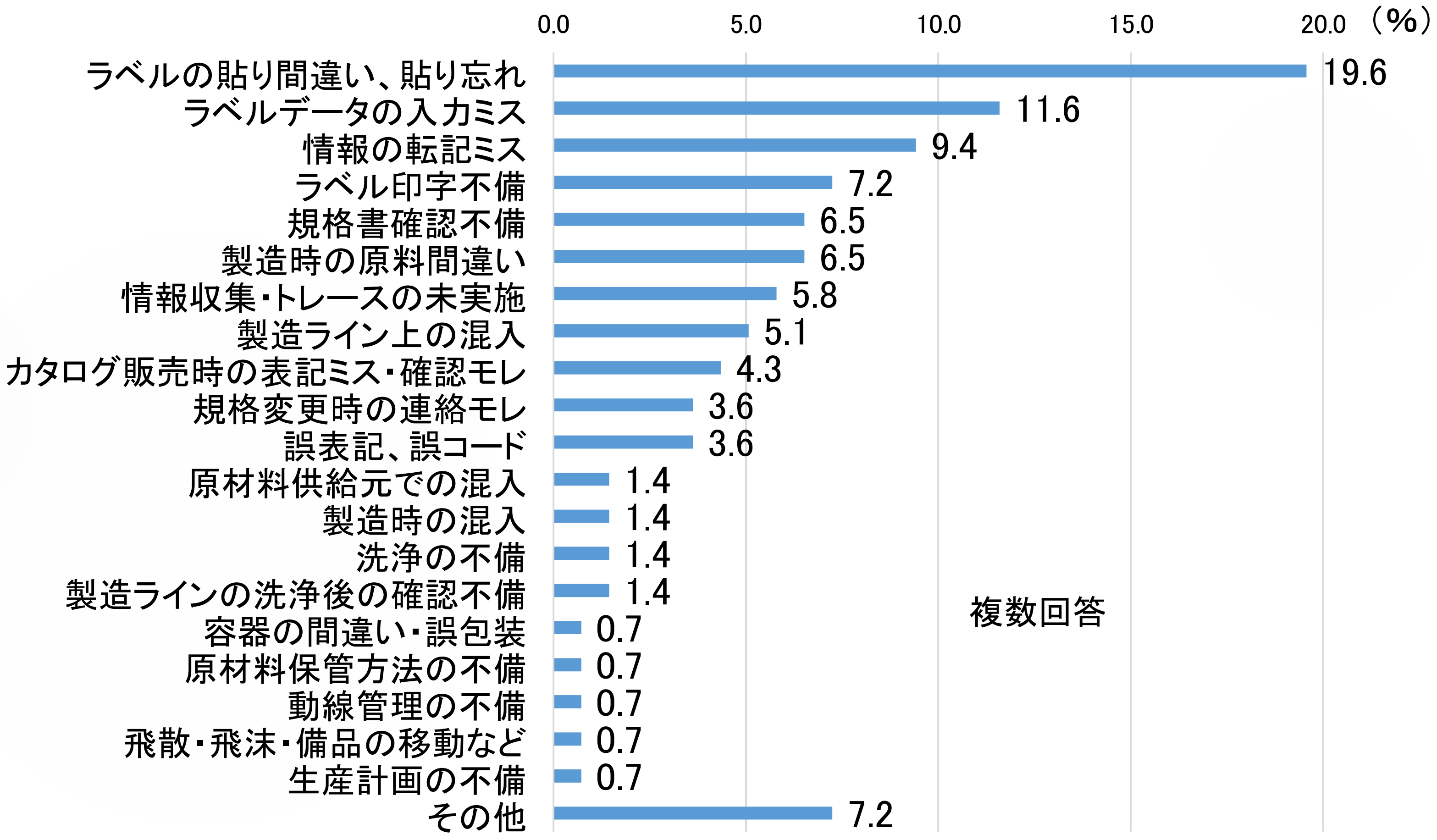
回収事故があっても自治体に報告されていない可能性



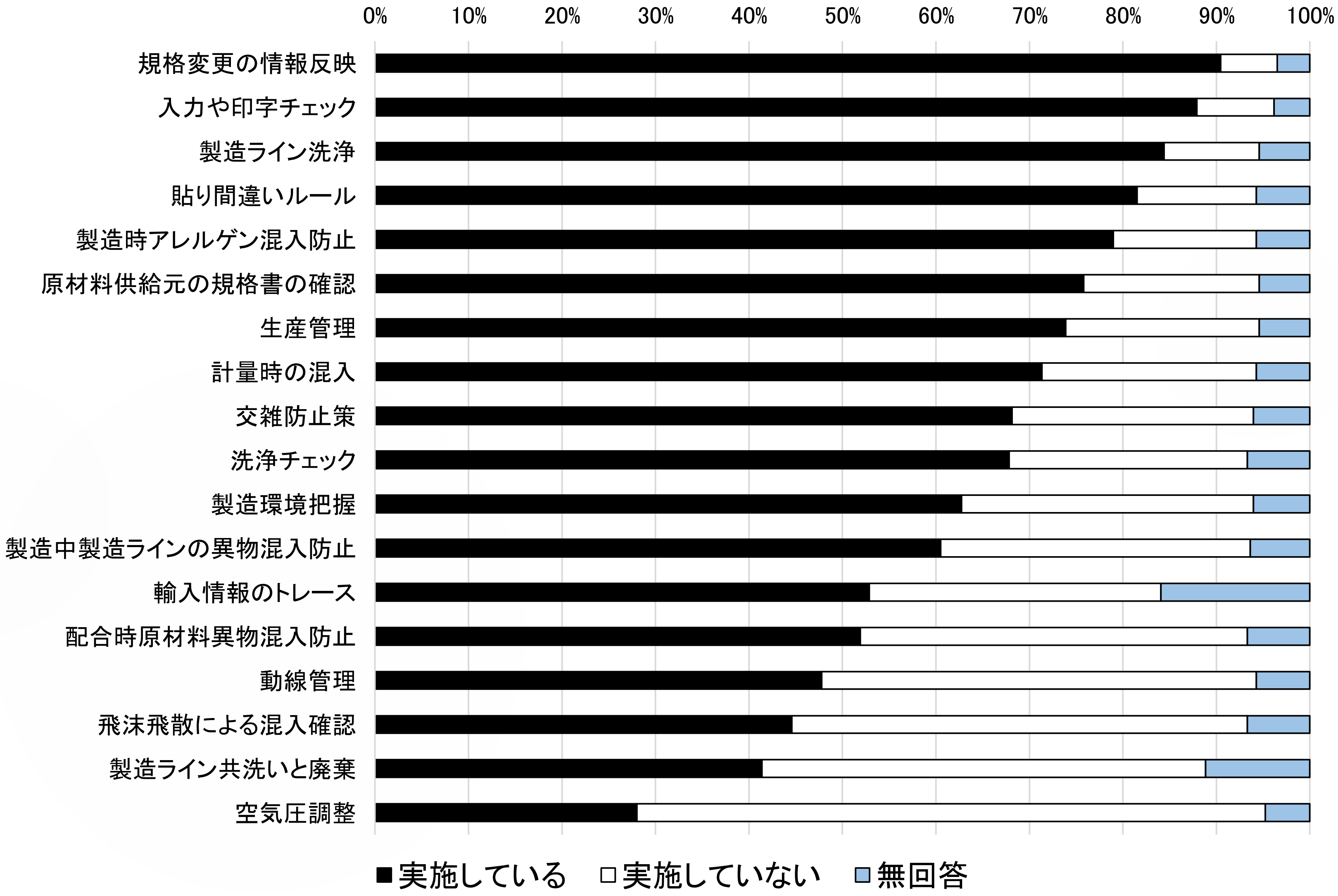
回収理由


(%)
0.0
50.0
100.0
表示ミス
63.7
アレルゲン混入
13.7
アレルゲン成分検出
7.8
その他
14.7

回収原因

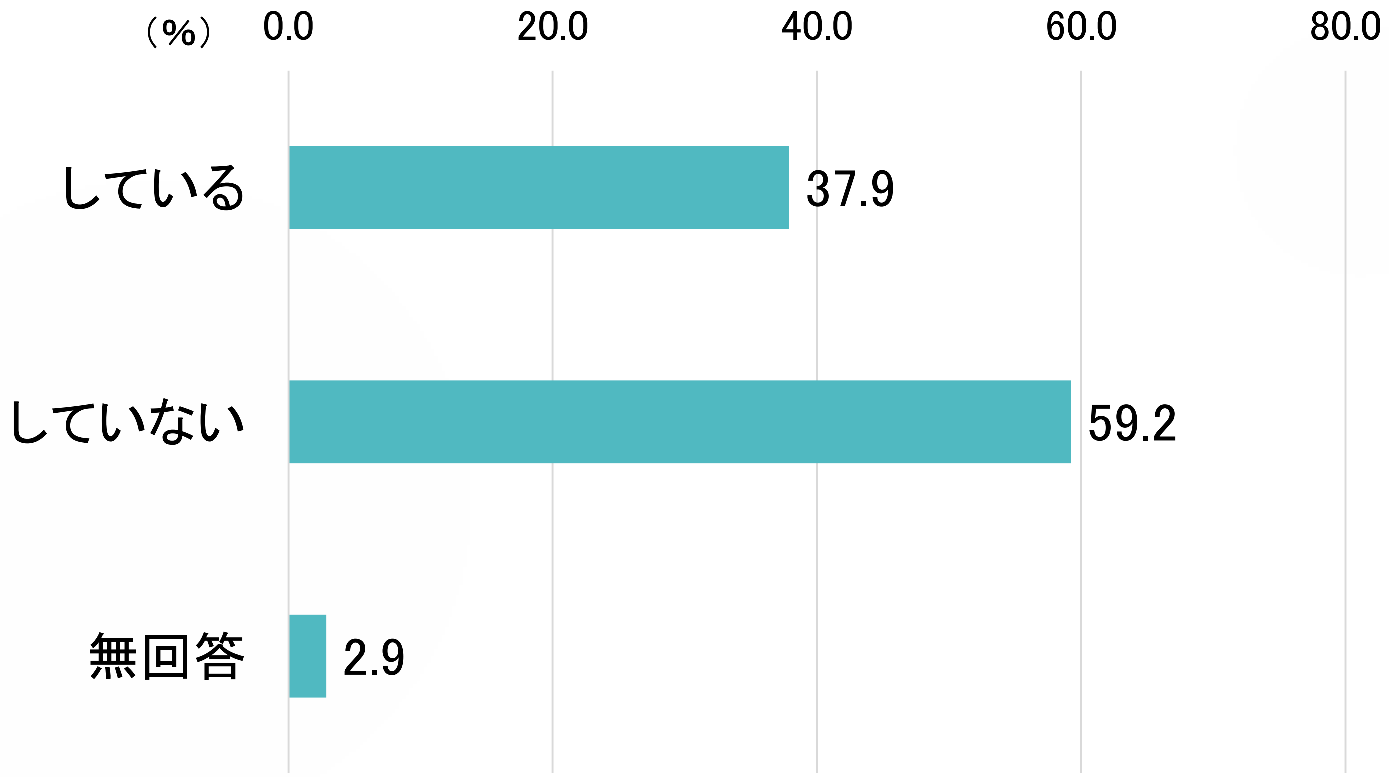

0.0
5.0
10.0
15.0
20.0
(%)
ラベルの貼り間違い、貼り忘れ
19.6
ラベルデータの入力ミス
11.6
情報の転記ミス
9.4
ラベル印字不備
7.2
規格書確認不備
6.5
製造時の原料間違い
6.5
情報収集・トレースの未実施
5.8
製造ライン上の混入
5.1
カタログ販売時の表記ミス・確認モレ
4.3
規格変更時の連絡モレ
3.6
誤表記、誤コード
3.6
原材料供給元での混入
1.4
製造時の混入
1.4
洗浄の不備
1.4
製造ラインの洗浄後の確認不備
1.4
容器の間違い・誤包装
0.7
原材料保管方法の不備
0.7
動線管理の不備
0.7
飛散・飛沫・備品の移動など
0.7
生産計画の不備
0.7
その他
7.2
複数回答

アレルゲンコントロールについて

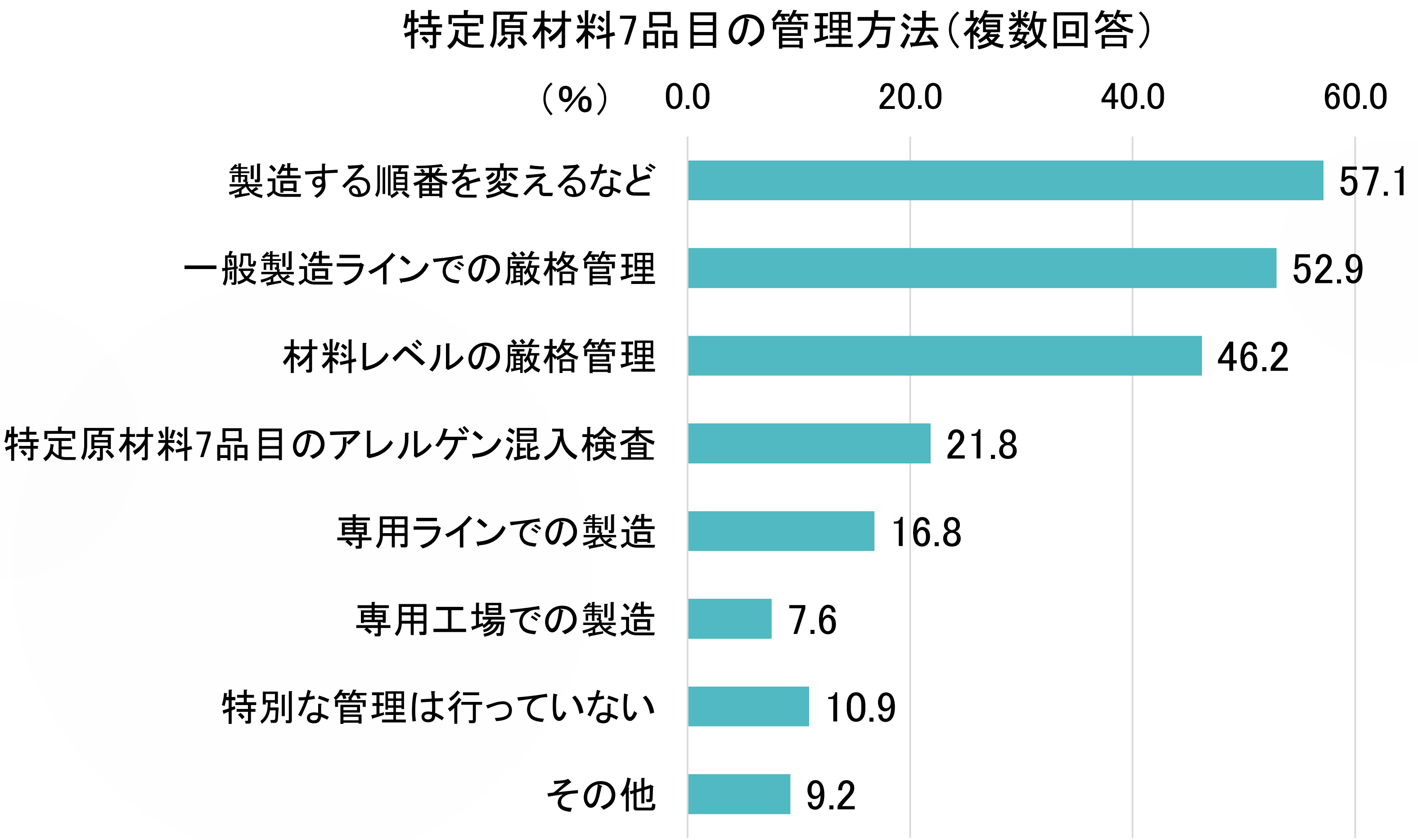


NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

食物アレルギーの人が主な対象となる食品の製造・販売

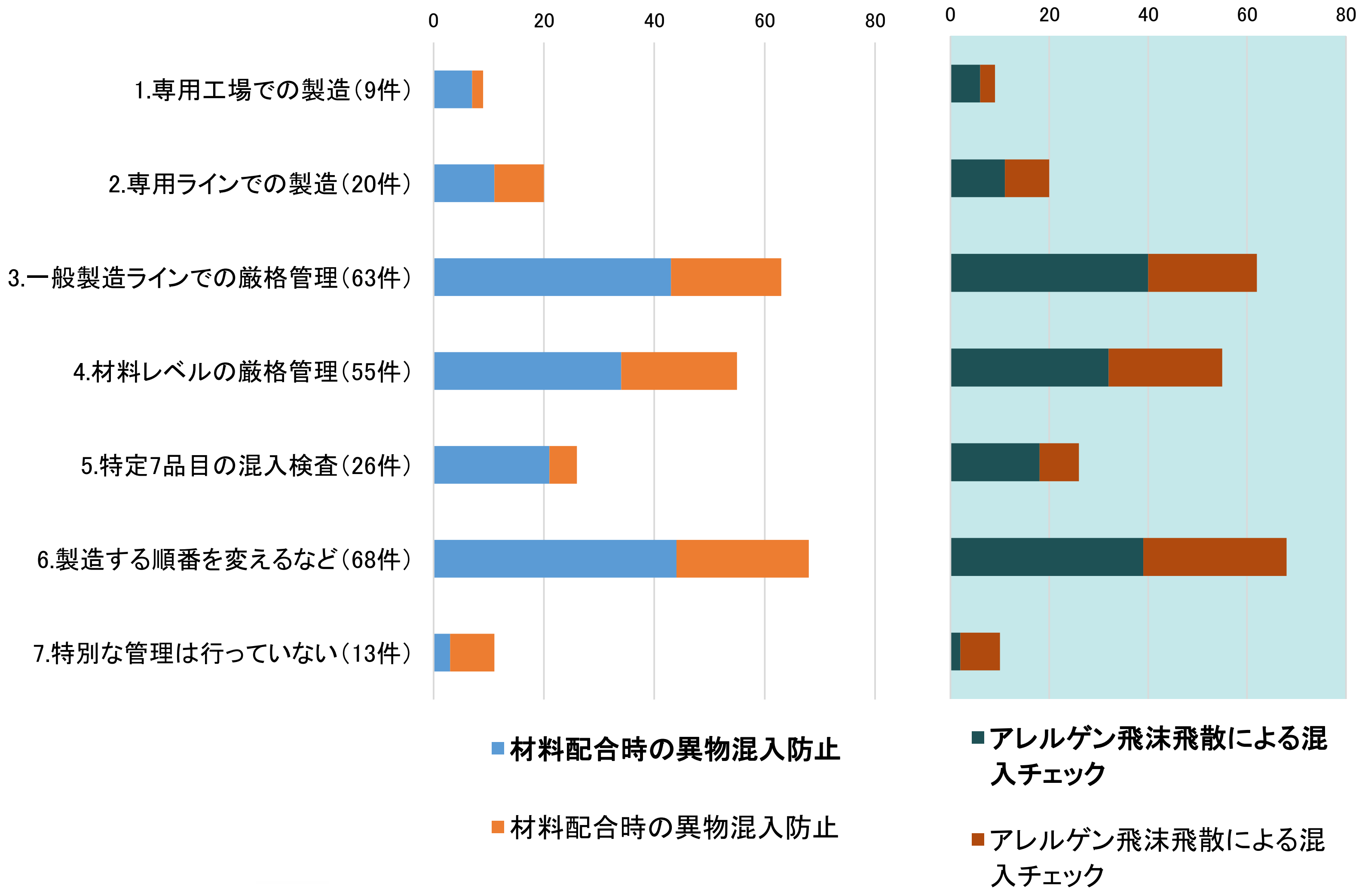


食物アレルギーの人が主な対象となる商品を製造

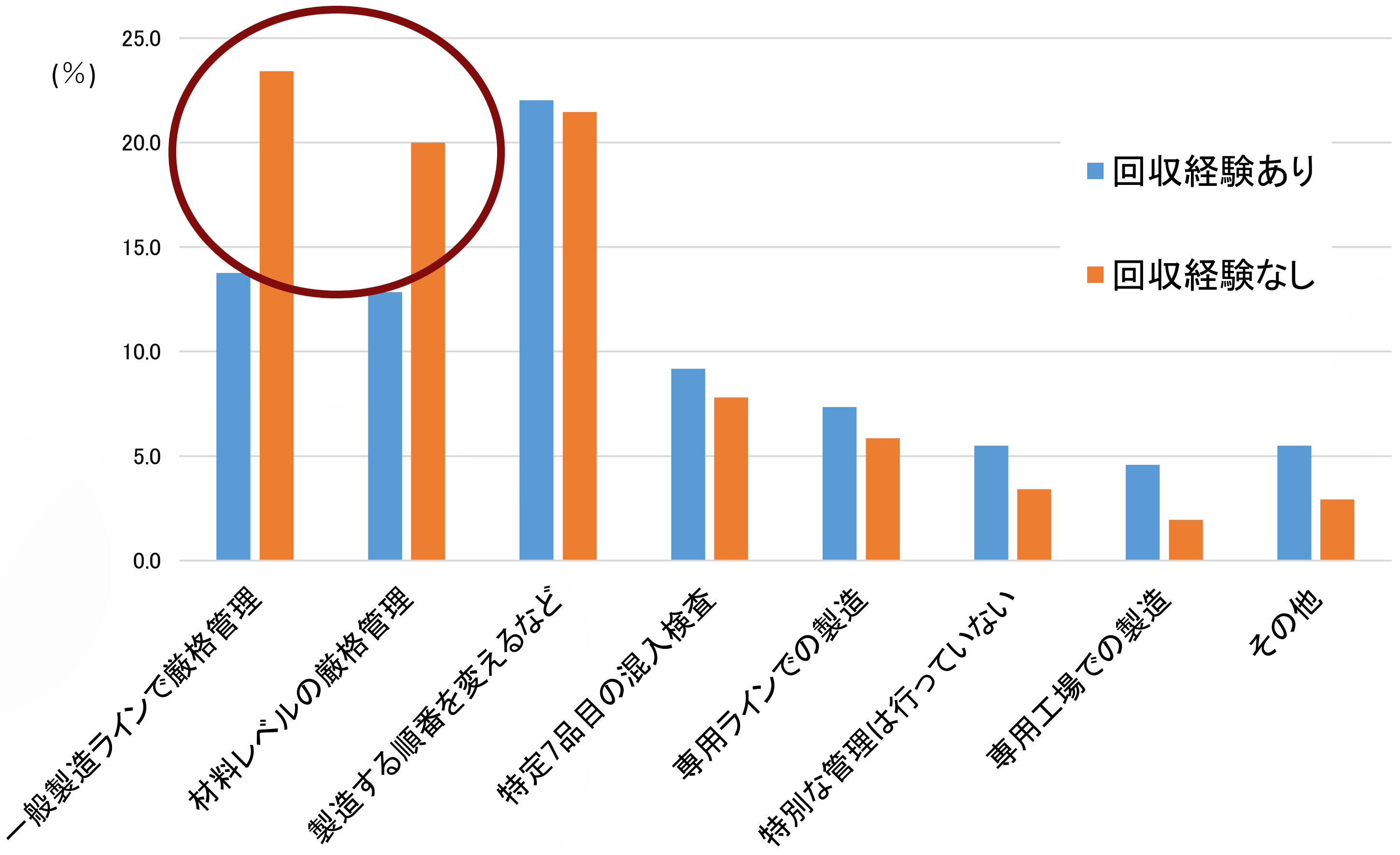


NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

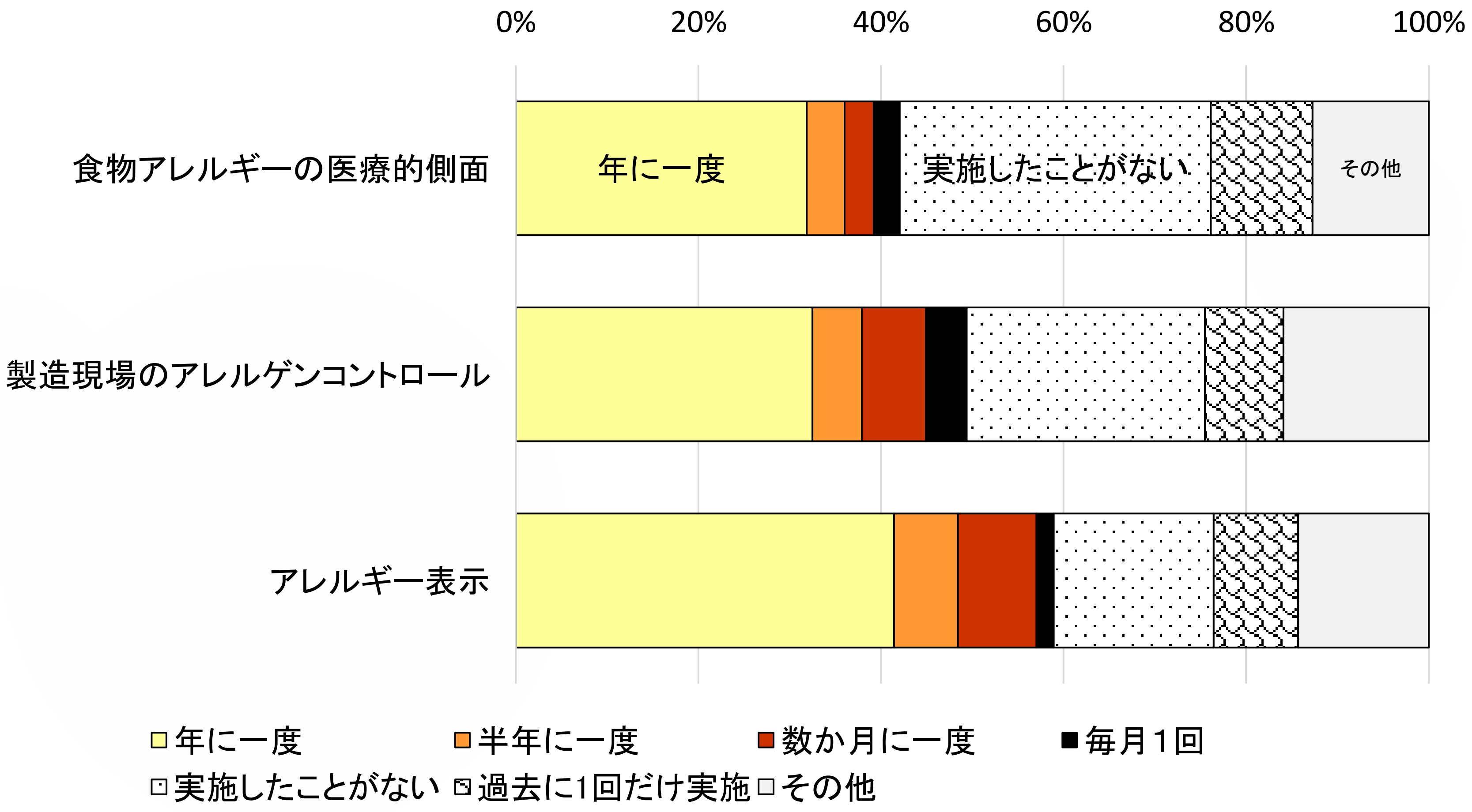
アレルギーの人を主な対象とする商品の製造をしている企業のアレルゲン対策



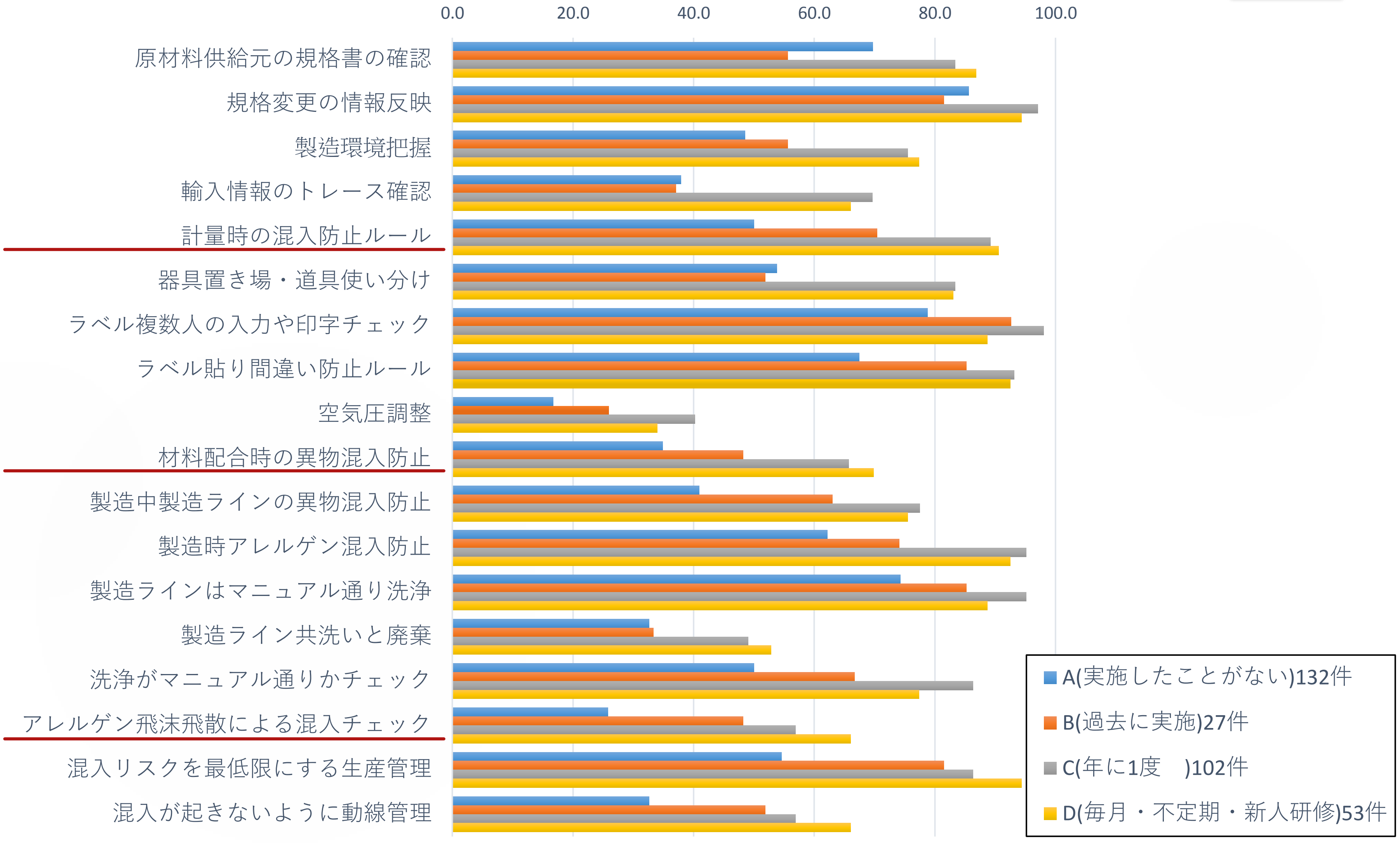
特定原材料７品目をどのように管理しているか



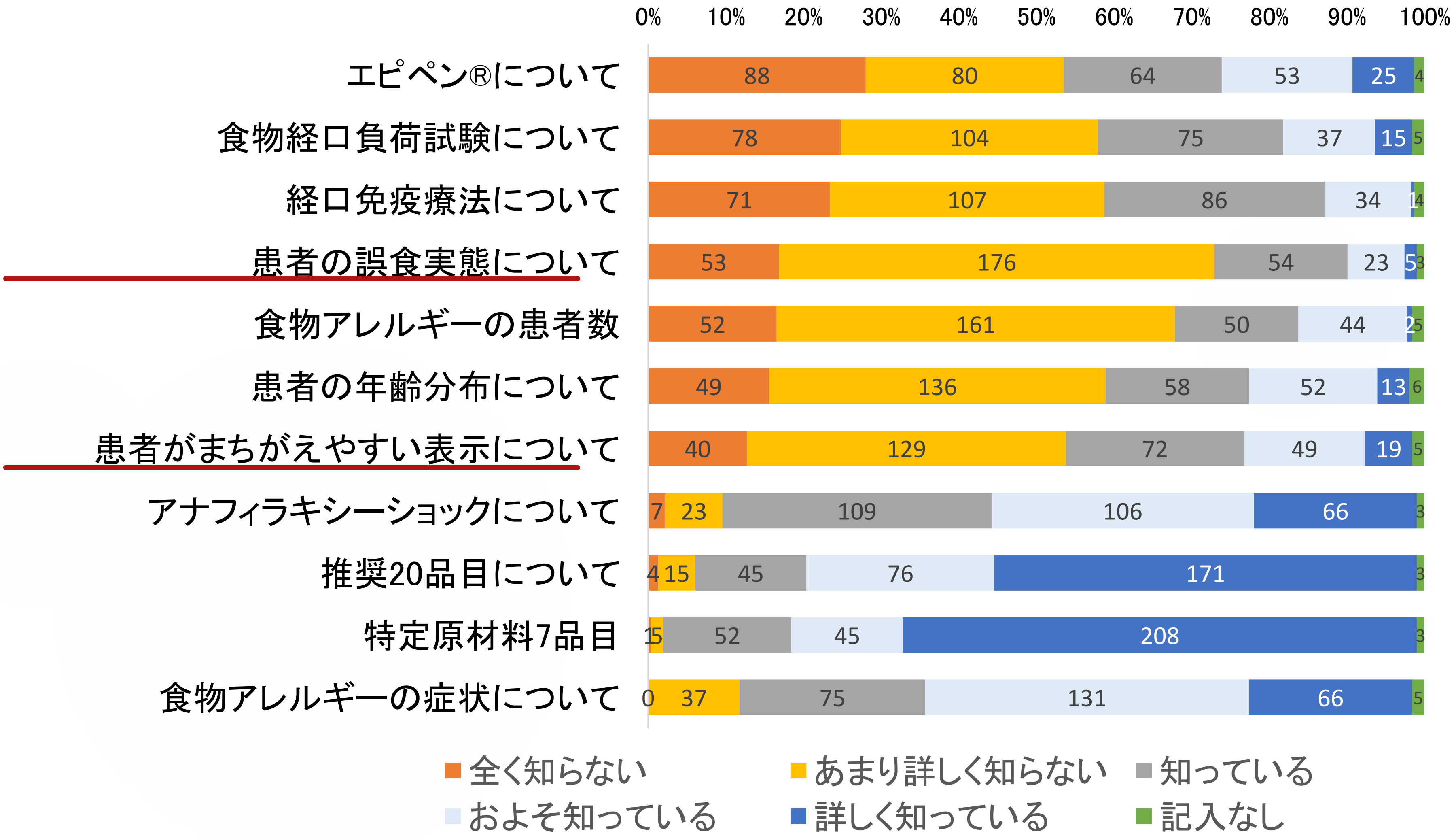
社員教育の頻度


0%
20%
40%
60%
80%
100%
食物アレルギーの医療的側面
製造現場のアレルゲンコントロール
アレルギー表示
年に一度
実施したことがない
その他
年に一度
半年に一度
数か月に一度
毎月1回
実施したことがない
過去に1回だけ実施
その他

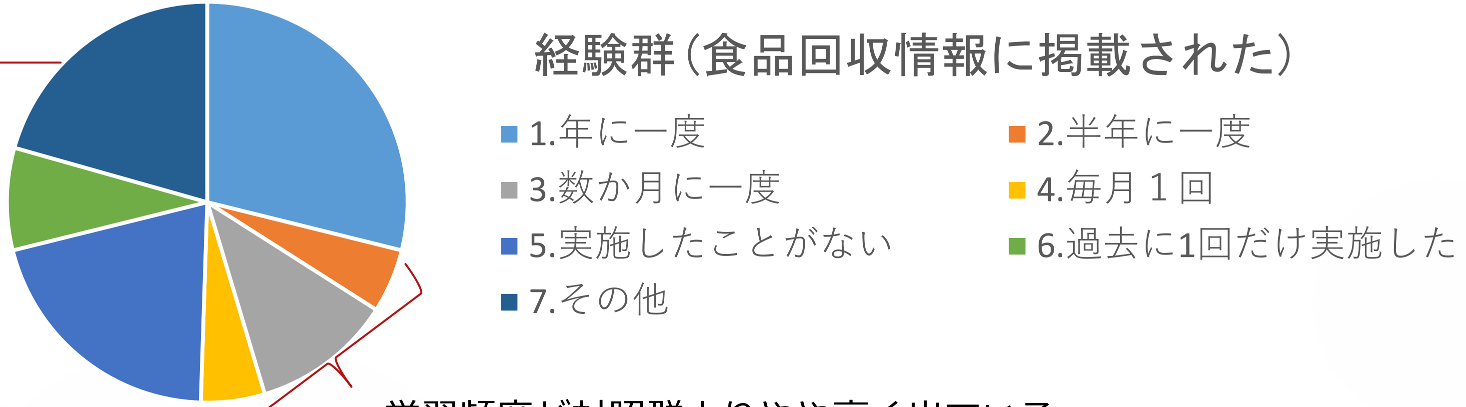
アレルゲンコントロール実施率と社員教育の頻度（アレルゲン管理）



食物アレルギーに関する知識

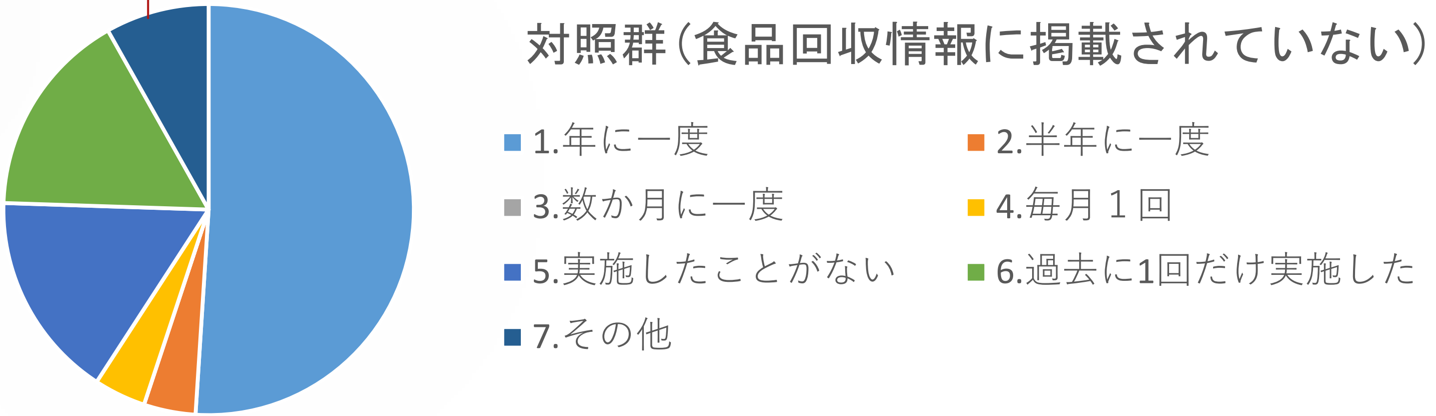


アレルゲンコントロールに関する社員教育実施頻度・食品回収ありと回答した企業

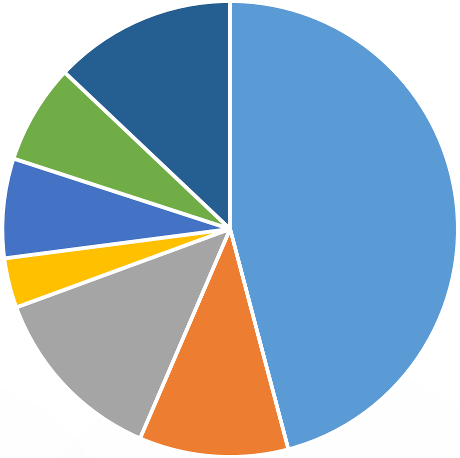


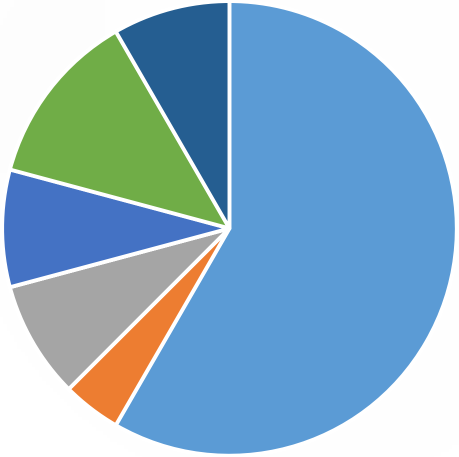
学習頻度が対照群よりやや高く出ている

必要に応じて実施



アレルギー表示に関する社員教育実施頻度・食品回収ありと回答した企業





回収情報掲載から最低1年たってアンケートを実施。社員教育の頻度の違いは、再発防止に取り組んでいる証左かもしれない。

ご清聴ありがとうございました

- 認定NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク
  https://www.atopicco.org

  食物アレルギー危機管理情報(FAICM)
  https://www.atopicco-foodallergy.org/